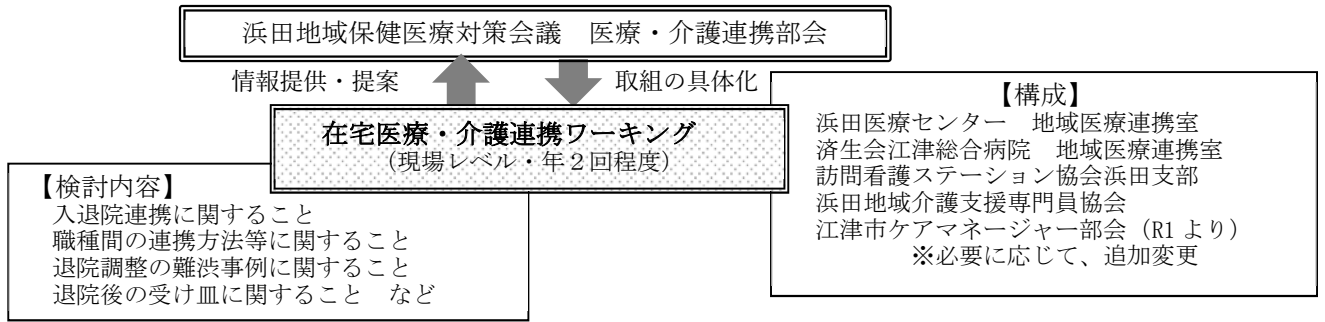


1 位置づけ



2 ワーキング開催の予定

第1回：11月20日(木) 10時～12時
 第2回：2～3月頃 時間未定



3 今年度の取組について

<圏域の状況>

「圏域内に受け皿が不足。生活基盤・介護力が脆弱であり、広島県に流出」に関して

- ・医療的なケアの必要な療養者の退院先やサービス調整に難渋。
- ・広島県の施設では「中間施設」との認識であり、一定期間の後、圏域内に戻るケース増加。
 ⇒圏域内の、安定した療養となるまでの中間施設、特養等の現状、対応力、過不足はどうか。
 第8期介護保険事業計画の検討につなげる必要。
- ・急変時への対応や日頃の体調管理などが確保できないと在宅は諦めることになる。
 ⇒病院主治医以外に、かかりつけ医の存在やかかわりの状況はどうか。
- ・療養先を転々とせざるを得ないことで、住民や家族は先が見えず不安。

(1) 新型コロナウイルス感染症対策について

- 各機関・団体による連絡会や研修会の参加・実施
- ・訪問看護ステーション協会連絡会(4/14) ・浜田市社会福祉協議会との連絡会(4/30)
- ・在宅支援者連絡会(5/1) ・江津市通所部会・訪問部会(5/19)
- ・浜田市通所系事業者(5/20) ・浜田市訪問系事業者(5/26) ・江津市ケアマネ部会(6/11) 等

(2) 圏域版入退院支援マニュアル(仮称)の作成について

- ・令和元年度最終(案)の確認と未記入部分を完成し、今年度内の作成を目指す。
- ・「医療・介護連携シート」による、管内の医療機関(病院・診療所)と在宅医療・介護関係者との間において活用による連携が進んでいる。患者情報の提供やカンファレンスの依頼などにも活用し、書式で書き切れない場合には、それぞれの施設で作成した書式の添付等を工夫されている。受診より前に患者情報の提供があれば、状況により受診日が前倒しで調整できたケースもある。今後も引き続き、「医療・介護連携シート」の活用を進める。

(3) 人生の最終段階(終末期)に係る連携、住民啓発について

- ・浜田市「自分らしい人生のために、伝えていきましょう!」、江津市「わたしの未来ノート」を用いて、出前講座などで住民と一緒に考えるきっかけとして活用中。住民の意識として、「エンディングや最期」という言葉には抵抗感があるため、日頃から住民自身が好きなことやこれからやりたいことなど考えてもらうことがまず必要である。これらの媒体も活用して、日頃から住民と話ができるよう、関係者も意識して進めていく。

(4) 緩和ケアの取組について

- ・本人や家族が在宅での緩和ケアを希望しても、地域で訪問診療をお願いできる開業医がないと退院できない状況がある。医師の協力があれば、余命1日でも退院したケースもある。在宅の看取りは連携できる医師の力が大きい。
- ・緩和ケア病棟の入院も最期までは難しいので退院支援の協力をお願いしたいが、訪問診療できる医師が限られており難しい現状がある。また、症状コントロールができていない場合や麻薬の使用がある場合は対応が難しい場合もある。

- ・医療的ケアが多いと家族の負担が大きい。ケアがシンプルな方が在宅を進めやすく、本人が使えるサービスが多い。
- ・在宅ではケアで訪問するヘルパーが異常を発見することもある。ヘルパーが異常発見できるのは大きいですが、福祉系のスタッフにとっては負担となっている。訪問看護師等の医療専門職と連携をとるなど、チームで支援していけるよう連携を図っていく。
- ・住民の意識にも「最期は病院が何とかしてくれる」という考えがある。選択肢として、在宅での緩和ケアもあることを啓発していく必要がある。

(5) 職種・分野間の連携促進について

- ・新型コロナウイルス感染症流行の中であるが、各機関・団体で工夫して連携した取組を進めていく。

<取組の紹介>

- ・江津市内の取組：「開業医とケアマネの顔なじみになる会」を通してコミュニケーションが図れ、連携促進につながっている。
「診療所医師と病院退院支援部門スタッフとの意見交換会」では、在宅療養のためには病院退院時の在宅関係者への情報提供が重要であることを共有され、入院時同様に退院時にもかかりつけ医への情報提供を11月から開始されている。
- ・浜田保健所の取組：「リハ職関係の市町村コーディネーター情報」の収集、「浜田圏域自立支援、介護予防に資する口腔機能のケアマネジメント研修会(11/19)」、「令和2年度入退院時における病院と在宅サービス事業所間の情報共有に関する調査のフォローアップ調査」の速報について紹介。
- ・まめネットの利用拡大の取組
(済生会江津総合病院)：公開情報項目の増加を実施
(浜田医療センター)：訪問看護ステーションと通院患者情報を共有。現在、公開情報の拡大を検討中。
(現在、薬剤情報・検査結果の確認が可能。新型コロナウイルス感染症流行の中でも、患者の食事形態や量、看護サマリーなど把握できると在宅に向けた準備が可能となる。)